

【コース】 人体の構造と機能 2

【コースディレクター】

CD : 魚住 尚紀(生化学)

CD 補佐 : 栗崎 知浩(解剖学)

【コースの概要】

人体の構造と機能 2 コースは、下記の 2 ユニットで構成される。

1 年次の 2 学期までに履修した細胞生物学コース、1 年次で履修中の人体の構造と機能 1 コースでの学修内容を理解した上で本コースを学修することが重要である。本コースを学修することにより、細胞生物学の理解を深め、一つ一つが多細胞（臓器・器官）で構成される系について知識を得て、複数の系が相互作用することで構築される複雑系としての人体（ヒトの構造と機能）へと視点を広げる。こうして、2 年次での人体の構造と機能コース、病気の基礎コースでの学修につなげる。正常機能の理解が、病態生理の理解への道筋を開く。「すべての臓器・系が統合されたものが人体」という認識を持つことが重要である。

1. 代謝系
2. 細胞・物質系実習

【目 標】

臨床医学を学ぶ基盤を作るために、人体の各器官系の構造と機能に関する基本的な知識を修得する。一つ一つの知識を体験として確認し、実験科学的態度を身につけるために、実習に積極的に参加する。

【学習方法】

講義と実習、演習により行う。

学修に当たっては、既に学修した内容との関連をよく理解しつつ、学習項目を正確に理解して覚えることが重要である。教科書のみならず、参考書をできるだけ多く読むことは大切であり、自ら読み進んで、積極的に質問することを奨励する。個別の項目として記憶した事柄を、場面に応じた様式（文章、口頭説明、図式など）・分量にてアウトプットできるよう、自ら再構成することをも重視する。

形成的評価として実施する課題については、当該授業（教材）中で解答と解説を提示する。

【評価方法】

1. 講義ユニットでは終了後、定期試験を行う。本試験は 100 点満点（MCQ 50 点、記述式問題 50 点）とする。原則としてこの配点とするが、ユニット内で行われる実習・演習等の評価の配点はユニットにおいて UD が決定する。再試験は、MCQ 50 点、記述式問題 50 点で合計 100 点満点とする。
2. 実習ユニットでは、授業、実習中の態度、レポート提出の期限遵守、等も評価の対象になる。

【指定教科書】

- ◆ 日本人体解剖学（上、下）、第20版（2020）、南山堂
- ◆ ギャノン生理学、原書第26版（2022）、丸善
- ◆ リッピンコットシリーズ イラストレイテッド生化学、原書7版（2018）、丸善
- ◆ Essential 細胞生物学 原書第5版、Alberts 他、中村桂子/松原謙一/榊佳之/水島昇 監訳（南江堂）

【参 考 書】

- ◆ 標準生理学第10版、医学書院
- ◆ イラストレイテッド ハーパー・生化学、原書30版、丸善
- ◆ ストライヤー生化学 第8版、東京化学同人